

OMNI USB の導入(3) (HP 収載)

—デモ機によるテスト(2)—

1. 始めに

前報(2)で、デモ機における電源エラーと DAC からの音出しができない問題も見通しが立ちましたので、USB トランスポートを替えてみます。

2. OMNI USB の試聴方法

テストする対象として fidata HFAS1-S10→Brooklyn DAC +の USB 経路とし、下図の Source Device は HFAS1-S10 ということになります。



音源は、HFAS1-S10 収納ファイル各種音源を試聴し、OMNI USB 介在で比較していきます。

試聴音源は下記のとおりです。

11.2MHzDSD

ステレオサウンド SSHRB-005

J.S.バッハ 無伴奏チェロ組曲

ヤノーシュ・シュタルケル (チェロ)

5.6 MHzDSD

ベルリンフィルデジタルコンサートホールより DA-3000 録音

ヘンリク・ヴィエニャフスキ ヴァイオリン協奏曲第 1 番嬰へ短調 op. 14

HIMARI (ヴァイオリン)

セバスティアン・ヴァイグレ指揮ベルリンフィル

44.1Hz16bitWAV

CD

ハルモニアムンディ HMM 905296

ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルト ピアノと木管のための 5 重奏曲

アンサンブル・ディローギ

MQA-CD

UNIVERSAL MUSIC UCCG-40074

アントン・ドボルザーク 交響曲第 8 番

ラファエル・クーベリック 指揮ボベルリンフィル

3. OMNI USB の試聴結果

fidata HFS1-S10 収納音源の再生は下記の経路で試聴します。

fidata HFS1-S10 → 【USB OptiLink】 → 【OMNI USB】 → Brooklyn DAC+
(or SWD-DA20)

電源 ON は、前報(2)の結果を基に HFS1-S10 → OMNI USB → Brooklyn DAC+ の順に入れていきました。

上記のフォーマットのいずれも問題なく再生でき、Brooklyn DAC+ の表示窓にもファイル音源のフォーマットが提示され、MQA-CD では 352.8 と出ています。

すなわち、WAV 音源から 11.2MHzDSD まで問題なく、OMNI USB を経由することが分かりました。

さらに DAC を SWD-DA20 に替えてみましたが、これも WAV 音源から、MQA や 11.2MHzDSD まで問題なく再生できました。

音質的には各種フォーマットの特性が反映されているようですが、評価の詳細については機会をみて実施します。

4. まとめ

USB トランスポートを fidata HFS1-S10 とし、各種フォーマットの収納音源を OMNI USB を経由して再生することができました。

以上